

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」施設再整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道士幌町

3 地域再生計画の区域

北海道士幌町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

(構造的な課題①：施設内設備に係る課題)

本施設においては、前述したとおり建設からかなりの日数が経過し、建物の老朽化が激しく進行していることから、結果として修繕費用がかさみ、施設経営に多大な影響を与えている。施設を運営する指定管理者は、施設の健全なる運営のため、多大な経営努力をしているところだが、依然として施設本体に起因する負担は大きい。

また、過去に実施した改修の際には、一部施設を増築したことにより、施設内導線の複雑化を招き、従業員の作業効率悪化から、従業員の負担増、人員不足を引き起こしている。

(構造的な課題②：町民利用ニーズに係る課題)

本町では、町民や転入者に対し、本施設に係る無料入湯券を配布し、町民の健康推進を図っており、その利用率は令和3年度51%、令和4年度53%となっていることから、多くの町民が本施設を利用しているといえる。また、利用者向けに入湯客無料送迎バスを毎週月曜日及び金曜日運行し、令和4年度は運行日数96日に対し、乗車人数は往路1,313人、復路1,220人、延べ2,533人とより多くの町民が利用できるよう実施してきた。

施設内には小さな段差が点在し、施設を利用する高齢者への負担や怪我の危険性が懸念され、今後、町内における高齢化が続くことに伴って、高齢な施設利用者の割合が高くなることが想定されることから、早急な対応が必要である。

(構造的な課題③：観光客ニーズにおける課題)

本施設は、道の駅ではあるものの、本町の幹線道路である国道241号線からは大きく外れた場所に位置しており、音更町上士幌町間を通過する人の流れを呼び込む力が不足している。そうした人の流れを呼び込むためには、本施設における観光的な魅力を高める必要がある。

また、現状の本施設においては、単なる「遊休施設」の要素が強いが、近年の温泉地には新型コロナウイルス感染症の影響もあり、環境省が温泉地のワーケーション推進を進めるなど、新たな機能が求められている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

(交付対象事業の背景)

士幌町の総人口は、第1期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した平成27年(2015年)の6,132人(国勢調査実績値)から徐々に減少を続け、第2期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した令和2年(2020年)には5,848人(国勢調査実績値)となっている(減少率-4.6%)。年齢区分別人口構成比については、平成27年(2015年)において、年少人口(15歳未満)13.8%、生産年齢人口(15~64歳)57.0%、老年人口(65歳以上)29.3%(※計算の関係で100%にならない場合有り。)に対し、令和2年(2020年)には、年少人口(15歳未満)12.6%、生産年齢人口(15~64歳)54.2%、老年人口(65歳以上)33.1%と少子化、高齢化が続くとみられ、令和32年(2050年)には、生産年齢人口(15~64歳)と老年人口(65歳以上)が同程度となることが推計されている。

本施設は、町民が健康で生産に励み、明るく豊かな生活を営むことができるよう、また、下居辺地区の活性化を目的に、国の農業構造改善関連緊急対策事業により、昭和52年(1977年)に「農民健康増進施設緑風荘」として建設され、士幌町農民健康増進施設「緑風荘」として営業を開始した。その後、建物の老朽化等により改修をし、平成13年(2001年)10月には「士幌町農民健康増進施設」及び「下居辺交流施設」からなる「しほろ温泉プラザ緑風」としてリニューアルオープンし、平成18年(2006年)8月には北海道で95番目の「道の駅」に登録され、今日まで約230万人の方々にご利用されている。

しかしながら、リニューアルからおおよそ22年が経過する中、環境問題や感染症の影響を受け、人々の観光スタイル、労働スタイルは大きく変化し、旅行の価値観も多様化。また、近年では、隣の音更町や上士幌町において新たな道の駅がオープンし、士幌町は観光の通過点的様相が強くなり、その影響から本町における観光入込客数は、ピークであった平成29年(2017年)の402千人から、令和4年(2022年)には322千人と徐々に減少しており、地域への滞在者及び関係人口の減少、地域経済の縮小が大きな問題となっている。

(地方創生として目指す将来像)

第2期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「人の流れを増やし、住環境を充実させ、移住・定住を促す」の目標のもと、本施設のリニューアルにより、町内の観光・交流拠点や観光資源の魅力を高め情報発信することで、本町で滞在・交流する国内外からの来訪者(交流人口、関係人口)を増加させることとしている。本施設において、多様な人々や首都圏等と地域住民の「ツナガリ」を築き、士幌町への新しいひとの流れを創出する拠点施設として、道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」を整備し、加えてデジタル側面を整備することによりワーケーション受入施設の側面を持たせることで、士幌町と繋がりを持った個人寄附・企業投資等や地方創生の取組への積極的な関与を促し、士幌町への資金の流れを創出・拡大させ、もたらされる複合的効果により、将来にわたって「活力ある地域社会」を実現する。

【数値目標】

K P I ①	地域における観光消費額						単位	千円／年
K P I ②	道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」の来客者数						単位	人／年
K P I ③	道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」の売上額（宿泊・レストラン・売店・入湯）						単位	千円／年
K P I ④	無料入湯券の配布数に対する利用率						単位	%
	事業開始前 (現時点)	2024年度 増加分 (1年目)	2025年度 増加分 (2年目)	2026年度 増加分 (3年目)	2027年度 増加分 (4年目)	2028年度 増加分 (5年目)	K P I 増加分 の累計	
K P I ①	405,790.00	-	10,000.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00	40,000.00	
K P I ②	104,123.00	-	3,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00	12,000.00	
K P I ③	171,417.00	-	5,000.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00	20,000.00	
K P I ④	53.19	-	5.00	4.00	4.00	3.00	16.00	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」施設再整備事業

③ 事業の内容

士幌町下居辺地区にある観光拠点施設、道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」は、株式会社ベリオールが指定管理者として管理運営を行い、施設整備を町が実施する。本施設整備では、町民利用ニーズと観光客ニーズに対応するとともに、新たな働き方への対応と合わせ誘客を高める施設機能の強化を主体に、施設従業員の省力化を考慮した導線や配置、地球温暖化対策の推進を考慮した機械設備の導入により持続可能な観光拠点施設とし、以下のテーマやコンセプトに沿って実効性の高い施設整備を行う。

【整備テーマ】

観光地から「感幸地」へ・・・近年の旅行は、有名観光地へ行くこと自体が目的ではなく、個人の嗜好や価値観が満たされる場へ赴くことが目的となっていること、町民にとって魅力的で楽しめる場であること

【整備コンセプト】

1. 士幌ブランド「しほろ牛の活用」～地産地消・食の探求
2. 「屋外空間・自然資源の活用」～自然体験・観光果樹園レジャー
3. 「新たな旅のスタイル」～滞在旅行、ブレジャー受入の場を提供
4. 地球温暖化対策～太陽光発電設備の導入
高効率・省エネルギー機器等の導入

(構造的な課題①：施設内設備に係る課題への対応)

施設の改修に当たっては、太陽光発電設備や省エネルギー設備の導入により、施設運用に係る費用面の負担を軽減し、施設運営の健全化を図るとともに、運営の自立化を推進する。

(構造的な課題②：町民利用ニーズに係る課題への対応)

今後、継続して増加していくとみられる高齢な施設利用者への対応を鑑み、施設内のバリアフリー化により、利用者への負担や危険性を排除し、施設利用者の利用満足度向上による入込数増加を図る。

(構造的な課題③：観光客ニーズにおける課題への対応)

魅力を高める要素の一つとして、大浴場を趣向の異なる2つの大浴場（健康の湯・美容の湯）に改修し、定期的に男女入れ替えで楽しめる仕組みづくりを行うとともに、近年のサウナブームを有効活用するため、若年層に人気のミストサウナを導入することで、新たな利用者層の獲得を狙う。

本施設が所在する下居辺地区には、滞在期間の長短に応じた2種類の移住体験住宅を整備し（Wi-Fi環境完備）、テレワーク移住やワーケーションの推進を行っているところ。令和4年度には、本町全域において光回線を整備しており、本施設においてもWi-Fi環境を整備することで、「温泉×ワーケーション」による新たな利用者層の獲得を図るとともに、地域一体としてワーケーション推進による関係人口獲得を狙う。

また、デジタルサイネージを設置し、既にデジタルサイネージを設置している「道の駅ピア21しほろ」との連携事業（例：片方のサイネージで表示される二次元バーコードを読み取ると、もう一方の施設で割引をする等）を実施することで、「道の駅から道の駅」の人の流れを創造するとともに、士幌町観光協会と連携した町内情報や、士幌ブランド「しほろ牛」を施設利用者へ確実に届けることで、施設利用者を単発利用で終わらせることなく、リピート利用の増加を図る。

さらに、レストラン厨房・客席を改修し士幌ブランド「しほろ牛」を活用した焼肉をはじめとする肉料理を提供できるようにすることにより、地産地消を推進し、地場ブランドのPRにつなげる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本施設においては、施設の効率的・効果的な運営を行うため、民間事業者に対する指定管理制度を活用している。施設の収入については、利用料金制として、運営する民間事業者が施設の運営経費に充てられることとしている。

本施設は、平成18年度指定管理者制度導入時から「榎ペリオール」を指定管理者として指定し、17年間に渡り、施設の安全かつ効率的な維持管理を行っており、地域企業として健全な経営実績がある。

令和4年度の指定管理委託料は11,738千円、宿泊・レストラン・売店・入湯売上高は171,417千円であり、前年度から増収増益となるも、物価高騰などの影響により赤字となっているため、町は運営費の一部に対して補助を行っているが、経費の見直し、コスト削減に努めるなどの経営努力により最終損失額は367千円にとどめている。

施設本体に起因する経費への影響は大きく、今後も本施設を指定管理者制度により継続して運営していくためには、本改修により指定管理者への負担を減らし、健全な経営へと導く必要がある。

施設のリニューアルについては、インバウンド客も見込んだ和洋折衷のシャワー室付き客室の整備や、健康と美容の趣向の異なる2つの大浴場やサウナの改修を行う温泉施設、特産品であるしほろ牛を核としたメニューを提供するレストラン施設など、観光客・住民ニーズに合わせた一体的なリニューアルの効果により年間500万円以上の売上増加を見込むとともに、エネルギー高効率設備導入によるコスト削減、レストランメニューの見直しによる食材費の削減により、収益の増加を図り、町からの運営費補助を限りなく0に近づけ、交付金に頼らない自立して安定的・継続的な運営を行っていく。

【官民協働】

【土幌町】

- ・施設の管理運営は、指定管理者制度を活用して行う。
- ・管理運営や指定管理者の経営状況について議会報告し透明性を確保し、町民意見を反映する。

【株式会社ペリオール】

- ・土幌商工会、J A土幌、地域住民による出資を受け、それぞれが株主・役員として経営に関わり事業を推進。
- ・帯広信用金庫、政府系金融機関との取引、融資実績があり、継続的な協力体制が構築されている。
- ・地域団体（公民館）に加名し、地域行事や事業に参加・地域振興に寄与する。
- ・海外からのインターンシップを受け入れており、地元高校の教育支援・人材育成に協力、同様にベトナム国からのインターンを受入れインバウンド対応の連携を行う。

【地域間連携】

【北海道地区道の駅連絡会】

- ・北海道で95番目の「道の駅」に登録されており、道路利用者の休憩施設としての役割を担いつつ、旅行者へ北海道内の広域観光、情報発信を担う。

【十勝観光連盟】

- ・十勝観光連盟との連携・協力し、十勝全体の情報発信を行い、道東十勝地域全体の誘客を促進する。

【北十勝4町広域観光振興連絡協議会】

- ・北十勝4町広域観光振興連絡協議会における事業に参加し、各町の観光振興を推進する。
- ・施設売店では、十勝管内の特産品・名産土産品を取り揃え、それら販売を促進する。

【政策・施策間連携】

【観光振興】

本施設整備により、現状「道の駅」での休憩、一時利用に留まる利用者層について、滞在型利用や地域交流を目的とする利用者層への変化に繋げていく。

【農業振興】

地元ブランド牛「しほろ牛」について、レストランやデジタルサイネージにより広く周知し、地場産品の情報発信、地産地消の取組みを推進することにより、生産者である農業者の所得向上に繋げていく。

【移住・定住促進】

Wi-Fi環境の整備により、ワーケーションを目的とした新たな利用者層を獲得し、二地域居住の候補地として移住・定住促進に繋げていく。

【まちづくり推進】

Wi-Fi環境の整備により、地域の移住体験住宅と連携してワーケーション利用者の獲得を狙い、「温泉テレワーク」による企業とのツナガリ創造、関係人口増加による地域内消費に繋げていく。

【健康促進】

施設整備により、町民の施設利用率を引き上げ、無料入湯券配布、入湯客無料送迎バス運行により、継続して町民が利用しやすい施設づくりを後押しし、町民の健康促進に繋げていく。

【防災拠点】

災害時における、道路利用者、地域住民の一時避難所として活用。万一の場合、食事の提供や入浴、客室を一次避難所としての利用を可能とし、町民や利用者の安心安全に繋げていく。

【デジタル社会の形成への寄与】

内容①

施設全体のデジタル通信wifiターミナル設備の設置

理由①

本施設において、デジタル通信wifi環境を実装することにより、同施設利用者によるコミュニケーション環境の向上や長期滞在者のテレワーク、ワーケーション需要等にも幅広く対応することができ、観光拠点としての利便性・優位性が期待でき関係人口・交流人口の拠点となり、定住・移住意向の向上とともに地方を支えるデジタル基盤の整備に資する。

内容②

デジタルサイネージの設置による町内情報の発信

理由②

町外からの施設利用者について、単発の利用で終わらないよう、町内の観光情報等を頻繁に更新し、リピートを狙う。

取組③

スマートチェックインの導入

理由③

スマートチェックインの導入により、チェックイン及びチェックアウトに係る従業員の負担を軽減し、人手不足解消を狙う。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 8 月

【検証方法】

・士幌町総合戦略検証シートを用いて、KPI・実績値を士幌町地方創生推進会議に報告、外部有識者からの評価及び意見をふまえ、事業の見直しを行う

【外部組織の参画者】

士幌町商工会、JA士幌、帯広畜産大学、帯広大谷短期大学、士幌高校、士幌町教育委員会、帯広信用金庫、士幌地区連合会、北海道新聞社、十勝毎日新聞社、社会福祉法人温真会、士幌町町民会議

【検証結果の公表の方法】

町広報誌または町ホームページにて公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】

総事業費 987,000 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2029年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 北十勝4町広域観光振興事業

ア 事業概要

【目的】北十勝4町（音更町・士幌町・鹿追町・上士幌町）の豊富な地域資源を活かした観光事業の連携を強化し、観光客誘致に向けた観光振興を図ることを目的とする。

【事業】

①広域観光事業に関する調査研究 ②観光客の誘致促進、誘客対策に関する事業 ③観光資源の充実・宣伝事業 ④その他な必要事業

イ 事業実施主体

北海道士幌町（北十勝4町広域観光振興連絡協議会との連携）

ウ 事業実施期間

2012年4月1日から2029年3月31日まで

(2) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2029 年 3 月 31 日 まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に
7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。